



中外製薬

Roche ロシュグループ

# Congress Report

第9回

日本腎不全看護学会 学術集会・総会

テーマ「**21世紀創造の看護** —知識と技を知恵で活かそう—」

●会期:平成18年11月11日(土)~12日(日) ●会場:仙台国際センター



# Congress Report

第9回 日本腎不全看護学会 学術集会・総会

21世紀創造の看護 —知識と技を知恵で活かそう—

## CONTENTS

### 大会長講演

#### 知識と技を知恵で活かそう —経験の持つ意味—

遠藤 優子 仙台社会保険病院 血液透析部 看護科長

4

### 特別講演1

#### 褥瘡医療に貢献するET/WOC看護のサイエンスとアート

徳永 恵子 宮城大学 副学長

6

### ランチョンセミナー1

#### よい透析のために看護師は…

政金 生人 医療法人社団清永会 矢吹病院 院長

9

### 教育講演1

#### 透析導入前後の医学的管理

田熊 淑男 仙台社会保険病院 病院長

12

### 特別講演2

#### 脳を知り、脳を育む

川島 隆太 東北大学加齢研究所 教授

15

### ランチョンセミナー2

#### 看護師のためのコーチング —腎不全看護への活用—

坂井 慶子 オフィスMONAMI 代表

18

### 教育講演2

#### 高齢透析者の療養上の課題とQOLを高める支援

佐藤 富美子 山形大学医学部 看護学科 准教授

21

# 知識と技を知恵で活かそう

## —経験の持つ意味—

仙台社会保険病院 血液透析部 看護科長  
遠藤 優子



### 知識や技を融合した知恵を 患者サポートに

腎不全医療は保存療法、腎臓代替療法、腎臓移植と多岐にわたっており、患者の年齢層も幅広く合併症も多い。そうした中、専門性の高い技術や多種多様な病状の把握、細やかで温かみのあるケアなど、看護師に求められるニーズは高まる一方である。さらにサイコ・ネフロロジーの分野などで広く深い看護が求められている。このような現状において、看護師は最も身近な存在である患者に対して、これまで自分が積み上げてきた知識や技、つまり“経験”をどれだけ活用できているのだろうか。

9回目を迎える今回の学術集会は、「21世紀創造の看護—知識と技を知恵で活かそう—」と題し、看護師個々の知識や技を融合し結集された知恵を、患者サポートやリスクマネジメントおよび職場環境や業務の改善、看護師の育成などに役立ててもらいたい狙いがある。

今回、皆さんがこれまで経験してきたことをいま一度振り返り、知識と技について検証していただくきっかけになればと考え、アンケート調査を行った。実施したのは2006年8月、仙台社会保険病院においてである。目的は、①経験年数ごとの透析看護技術に関する実態把握、②看護師個々の技についての分析、③技の習得・伝達に関する経験年数ごとの把握—である。現在、当院血液透析部に勤務する全看護師34名を対象とし、うち30名から回答が寄せられた。勤務年数は1年未満4名、2～3年5名、4～5年4名、6～10年9名、11年以上8名である。実施にあたり「知識」「技」「精神」について用語の定義を行い、

「知識＝看護専門職が看護を必要とする人々との援助関係を基盤とした学職」「技＝技術・方法のことで、道具を用いた手技」「看護精神＝心・関心・気配り・見守り・思いやりなど」とした。

### 経験年数によって異なる 技の取得、伝達方法

図1を見ると、経験年数が上がっていくごとに「知識」「技」「精神」のすべてが積み上がっていくのがわかる。経験を積むにつれ、3つの要素が熟成されていくとともに、バランスも図られるものと推察される。さらにアンケート設問の「あなたが考える看護の基本となる技は何か」「あなた自身の技とは何か」について経験年数別に聞いたところ、経験3年までの看護師では、大切なのは日常業務を行うための専門技術で、基本手技を習得中という回答が最も多かった。経験4～5年では基本手技は十分身につけているものの、プリセプター、リーダー業務、院内の委員会活動などが新たに加わり、責任も大きくプレッシャーになっていることをうかがわせる。経験6～10年では、自分の知識と照らし合わせた患者への対応ができており、それを技としての確に提供していることがわかる。経験11年以上になると、必ずしも理由づけをしながら行動しているわけではないが、瞬時に状況を判断し的確に行動しており、日常業務を申し分なく遂行できているとの自信がうかがえた。

技の取得・伝達方法について見ると、経験年数によって大きく異なることがわかる(表1・2)。経験1年未満では、

図1 「看護の基本となる技と考えるもの」と「自分自身の技」

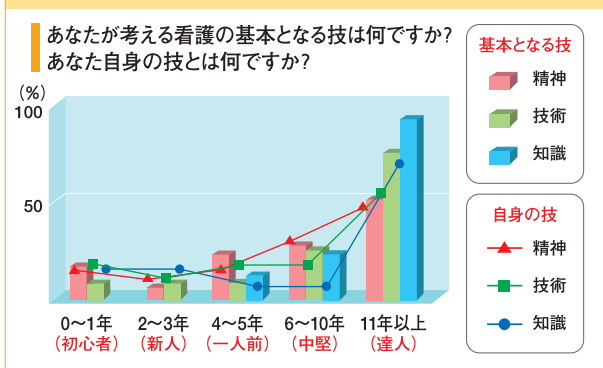


表1 技の取得・伝達方法(勤務年数6年未満)

経験 0～1年	●先輩が作成したマニュアルまたは直接指導を受ける。
経験 2～3年	●先輩の行動を見て学ぶ。 ●講演・研修会に参加し、感性を高める。
経験 4～5年	●業務について同僚などから評価を受ける。 ●患者への声かけが不足しているような時には補足し、その場面を後輩に見せる。